

課題解決能力を醸成

シンポで上村氏ら講演

北海道病院経営アドミニストレーター育成拠点

「シンポジウム」アントレプレナーシップを有する医療人材へが開かれ、札幌大救急医学講座の上村修二講師が「H.U.H.M.Aを受講して得たもの」と題して講演。病院経営アドミニストレーター育成拠点（H.U.H.M.A）プログラムの受講を通じ、経営のみでなく、組織等における課題解決能力を身に付けることができた」とPRした。

上村氏は、北大保健科
学研究院が開講していた
病院経営アドミニストレ
ーター育成プログラムを
2019年度に修了。同
プログラムは18年度から

開講され、多くの医療機
関勤務者が病院経営を専
門的に学んだ。22年度か
ら運営主体が小樽商大・ヒ
ジネススクール（商学研
究科アントレプレナーシ
ップ専攻）に移るため、
シンポジウムはそのキッ
クオフの位置づけ。

シンプの冒頭、プログ
ラムの責任者である小樽
商大ビジネススクールの
藤原健祐准教授は「現在
は予測が難しい時代。医
療に限らず、どの業界で
もアントレプレナーシッ
プ（起業家的行動能力）
が重要。小樽商大が主幹
となり、こうした能力を
持つ医療人材を育成する
拠点として、今後も継続
して活動を展開していき

たい」とあいさつした。

上村氏は講演で、プロ
グラム受講で最も腹落ち
したこととして「問題と
課題の違いを意識するこ
と」を挙げ、「困ったこ
と（問題）があった場合、
あるべき姿を描写し、困
ったこととの差やその要
因を見つけることで課題
に落とし込める」と語っ
た。

実践例として、所属講
座の教職員を増やす戦略
を立案し、受講した19年
度に1人だった救急科専
攻医の採用実績が22年度
に6人に増えたことを紹
介した。

中でも「H.U.H.M.Aでの
経験が至るところで生か
された」と強調。入院情
報共有システム「コピッ
トチエイサー」を民間企
業と開発し、札幌市保健
所入院調整チームでは朝
夕のミーティングで課題
を抽出し、次々と解決し
ていったという。

「2040年には団塊シ
ュニアが高齢者になり、
1人の高齢者を1・5人
の現役世代で支える時代
が来る。H.U.H.M.A受講
が医師20年目だったが、
現役残り20年は2040
年問題に向けて、救急医
療や自施設の持続可能性
の課題に取り組んでいき
たい」と決意を語った。

上村氏はプログラム修
了後も自己学習を続け、
「課題を解決できない組
織が見えてきた」と指
摘。①従来型のピラミッ
ド型組織②部下にエンパ
ワメントしない③プリ
ンシパル・エージェン
ト問題④の3つを挙げ、「全
てはマネジメント側の課
題。当教室は、心理的安
全性が高い自走する組織
を目指している」と述べ
た。

また、プログラム受講
を経て医療政策と病院管
理に興味がわき、今後の
目標が変わったという。

そしてグローバルな取
組みを目指してほしい」と
呼びかけた。